

## 「こどもゆめくらぶ」

## 里山体験レポ

富江 文雄

9月21日(土)

子どもたちとその家族それぞれにお世話の方を入れ71人、当会のスタッフ23名を入れて総勢94名での開催となった。前日までの猛烈な酷暑が多少なりとも緩和される曇天であったが、もし暑さ指数が危険範囲になれば、その時点で中止となるとの了解の下、スタッフ全員早くから集まってテントを張りすべて準備完了。

10時半には全員集合の予定であったが、車で来る人たちが道に迷うということがあって、少々遅れて始まりました。始めに朝の歌を合唱、千載会長の「ようこそならやまへ」の挨拶があった後、里山特有の危険物などの説明があった。



11時から全員で稲田に向かい、鈴木さんの「お米の話」で稲の種類、伝来、栽培の流れ等の説明を受けた。

次に2班に分かれて、一班はビオトープ池に移動して田中さんからビオの成り立ちや、絶滅危惧種のペタキンの話の後、「もんどり」を上げて中に入っている生物の観察、特にザリガニや



スジエビ等を取り出し、更に手網を使って池の

生物すくいに夢中になった。

二班は畑に移動して、エコの皆さんに迎えられ東池に隣接する農園で、ナス、ピーマン、万願寺トウガラシを収穫。大きな長ナスには驚きの声があがった。



そこで午前の部は終了。昼食時にはならやま名物の豚汁が提供された。暑いときに熱い食べ物も御一興、フーフー言いながら食べた。

午後の部では、全員ヘルメット着用し、班ごとに竹林活動と薪割り体験を交互に行った。

竹の伐採では根元から少し上に切れ目をいれ、倒す方向を定めて一気に切り倒す。それを3~4m程に切り、枝を払って完成。

薪割り機は危険なので、作業を慎重に行った。丸太を薪割り機に設置、刃を当ててゆっくりと割り込みを入れていき、完全に割れてから取り出し薪棚に並べて完了。

それぞれ貴重な体験が出来たと思う。

竹林を後にして山中の観察路を進み、途中でシイタケ栽培地で榎木(ほだぎ)が組まれているのを見て、アスレチック広場に到着。

薪割りを体験した班は機関車広場を通過して部分皆伐地へ移動、植樹の話聞いて樹木林の再生を学んだ。そして観察路経由でアスレチック広場へ。

山の中に設営された色々な道具を使って思いっきり楽しく遊んだ。

その後、それぞれ別のルートでベースキャンプに帰り、千載会長の「里山の話」を聞いた後閉会の挨拶があった。お土産として収穫した野菜、じゅず玉のブレスレット、鹿の折り紙などが手渡され、終了した。